

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374400253		
法人名	医療法人光慈会		
事業所名	グループホームながしのの里 第1		
所在地	愛知県知立市長篠町新田東11-10		
自己評価作成日	令和3年8月26日	評価結果市町村受理日	令和3年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2374400253-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ前は季節の花を見に外出、季節ごとの御家族様参加の行事などイベントを充実していました。現在は外出も行えない状況でどのようなものができるかという点で、まずは見に行けないなら作ろうという形で、季節の花等をモチーフにした飾りを作り、手先の運動も出来、季節も感じられる活動をしています。食事は現在外注の物になり皆さんと作るという事は以前よりなくなりましたが、外注にしたことで栄養配分もしっかり管理されたり、季節の料理が食べれるなど良い点もあります。時折お寿司などのお弁当を近くのお店から配達してもらって等食事をより楽しむ活動をしています。大きなイベントはできませんが入居者様とスタッフだけの縮小した形でのイベントを行い、今できる事を日々考え実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

勤続年数が長い職員が多く、チョコ案制度も実施されている。ホームとして問題意識を持ち、改善に向け日々取り組んでいる。職員の育成についても、感染対策を講じた上での法人内合同研修やeラーニングを活用し、前向きに取り組んでいる。
ホームの敷地内に菜園があり、ゆず、トマト、ナス、さつまいも等、季節の野菜を育て、収穫した物は料理やゆず湯に活用している。利用者も水やりや収穫に携わり、季節が感じられるようにしている。
コロナ禍以前は地域の行事に参加し、ホームイベントの開催にも積極的に取り組んでいたが、現在は感染防止の為に自粛している。感染対策として規模を縮小して花火大会を実施するなど、ホーム内で出来ることに取り組んでおり、コロナ禍の終息が待たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に掲示し目に見えるようにし意識づけを行っている。1年の目標設定は理念をベースとした目標を立てている。	法人が掲げる理念や目標を踏まえて個人の目標を設定し、実践に繋げるよう取り組んでいる。コロナ禍で未実施ではあるが、理念についての研修を予定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において外部との交流はできていません。地域の回覧板を頂き、地域の情報を得ている。	コロナ禍以前は公民館、高校と交流していたが現在は行われていない。その他の行事も参加・交流を控えているが、文化展には利用者の作品を出展している。	コロナ禍の現在、様々な交流機会が失われており、コロナ禍終息が待たれる。終息後の取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では書面のみで現状を報告している。地域への活動は現状行えていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での報告のみしか行えていないが事故報告などを開示することで、開けた施設づくりを目指しています。	コロナ禍の現在、運営推進会議は書面での開催となっている。ホーム内の様子やヒヤリハットなどの報告もあり、情報提供に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での内容は書面で報告し、年に数回ワーキンググループ会議が開催され意見交換を行っています。書類などの手続きで市役所へ行くと交流したり、メールを通して情報交換を行っています。	交流機会を持てるよう取り組んでおり、地域包括支援センターもワーキングチームの一員として参加している。交流機会の一つとして、Zoom開催もあるが、なかなか参加出来ていない状況ではある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員を毎月開催し不適切ケアへの検討、改善を目指している。玄関は夜間のみ施錠行い、職員手薄の時以外は施錠していません。身体拘束に対しては新人研修等で学ぶ機会がある。	リスク委員会を設置し、不適切ケアへの検討を行うことで職員の意識を高めている。Eラーニングを活用し、研修機会を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内出血ノートを設置し職員の気づきや意識の向上を目指しています。運営推進会議でも開示することで意見を頂いている。虐待に関しても新人研修等で学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修にて専門家から学ぶ機会がある。現状必要とする方はいないが、情報、知識として備えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は全ての項目を説明したうえで契約を行っている。改定時は説明文を添えて御家族へ書類を郵送しご理解いただいたうえでサインを頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にてご相談頂いたら対応しています。苦情相談窓口は施設側と市役所などの外部にもあることを契約時に説明している。意見箱の設置をしています。	コロナ禍で家族会は開催されていない。現在は2ヶ月に1回、書面での情報提供を行い、意見や要望を聞くようにしている。面会は中止しているが、必要に応じ例外を認めており、意見や要望を聞く機会としている。	面会に制限がある中、利用者の状況を伝える工夫もあり、ホームとしての前向きな姿勢がみられた。今後も良好な関係継続に対しての取組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにて意見交換の機会を作り、人事考課における面談等で直接話をする機会を設けている。チョコ案制度を設け業務改善を提案できるようになっており、提案された意見は検討し実践している。	カンファレンスや人事考課での個人面談があり、職員から意見や要望を聞く機会を設けている。業務改善に向け、チョコ案制度を設けており、実際に採用されたケースもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて等級を設け等級に応じた給料体形が整っている。ヒヤリハット件数、研修参加、チョコ案など取り組みに応じて評価している。昨年は休憩時間がしっかり取れるように業務改善しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍において集まった研修の機会が少ないが、スマートフォンにて動画を見て学べるようになった。研修の際にかかる費用は法人より支給される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの方とはワーキング会議にて交流し、西三河ブロック会議(現在はZOOMにて開催)に参加し情報共有と意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前見学時などで本人様や御家族から情報を得てそれに応じたプランを立案している。生活していくうえで得た情報や気づきはその都度ショートカンファを行い、検討、改善を目指しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の段階、プラン更新の時に御家族様から思いや意見を伺っている。また決まったプランは説明し同意を得ている。特にどのような生活を希望しているかという点を大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に得た情報を踏まえその方に必要な支援を検討し実践している。必要に応じてリハビリやマッサージのサービスを利用している方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	バックグラウンドなど入居に至るまでの生活歴を教えて頂き、それを基に会話や活動を行って頂いている。出来ることを見極め行っていた頂き、必要な所を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍において行事や面会に制限があり、交流が少ない中、病院受診時などのタイミングでご本人様の状態を報告している。電話や手紙での通信支援も行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において外出禁止になっている。友人との手紙でのやりとりを継続されている方がいる。ホームページにてブログを上げるなど、外部の方が施設の写真などを閲覧できるようにになっている。	遠方の兄弟との年賀状や暑中見舞いなどの手紙のやりとりがあり、電話での交流も支援している。利用者の入居前からの趣味の編み物が継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や行動に気を付けトラブルを未然に防いでいる。職員が間に入り入居者様同士のコミュニケーションが円滑に進むよう心掛けている。関係性を考えた配席も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の施設の方であった時は様子を伺ったりしている。全ての方ではないですが、状況が変わった時やお亡くなりになった等の時はご連絡を下さっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン立案の際は本人にも出来る範囲で思いを聞いている。カルテには本人の言葉を書くようにしており、その中で出た思いを読み取りケアに活かしている。	職員の日常の関わりから、利用者の意向・要望の把握に努めている。把握した事柄は利用者個々のカルテに記録され、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にそれまでの生活歴などの情報をわかる範囲で御家族様に記入して頂いている。別のサービスを利用されていた方は、その施設へ行き情報などを教えて頂き、可能であればそこで本人様と面談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後しばらく「出来ることシート」というものを付けていき、本人の状態を把握に努めている。プラン更新時には個人情報を見直し必要事項は変更している。毎日プランの達成状況を記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様には面会、受診時に御家族様の意向を伺いプランに反映している。意見シートを活用し検討したい内容があればカンファレンスに議題としてあげて検討しプランにも反映している。	生活援助、生かせる長所を介護計画に反映させている。利用者ごとに担当が付き、介護計画の更新時に細かく観察して評価している。モニタリングは3ヶ月に1回行い、必要に応じて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテにはプランの達成状況を評価しており、行った内容の中に本人の様子や言葉を記入するようにしている。プランの評価や状態の変化を抽出しプラン変更に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族と疎遠になっている方が「見守り家族」を利用していたり、ご希望者は「訪問マッサージ、歯科往診」なども利用して頂いている。ご要望に応じた対応を出来る限り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において外出禁止の為機能していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要であれば医者を紹介する事もあります。かかりつけの医者を変更して頂くことはしていない。必要あれば情報提供書を記入しDrへ伝えている。	協力医があるものの、以前からのかかりつけ医を利用しているケースが多い。受診時には必要に応じて情報提供書を作成し、適切な医療が受けられるよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を共有できるよう「NS連絡ノート」を設置している。ホームの看護師不在時は併設のデイサービスの看護師と連携し処置や受診への助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報をまとめた書類を届けて情報を共有しています。退院に際しては状態を共有し今後の生活について助言を頂き、ホームでの生活が送れるようにしていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ながしの里の方針を契約時に伝え契約している。グループホームでの生活が困難となってきた場合は御家族へ説明し一緒に今後について考え、状態に合った生活の場を検討し他施設の紹介や支援を行っている。	利用者の重度化に伴い、グループホームでの生活が難しくなってきた場合は家族等に説明し、他の施設への移行を提案している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケガや応急処置は職員が出来る様に処置BOXを設置し分かりやすいようにしている。急変時はNS、管理者が対応し指示を仰ぐ。夜間の急変も管理者へ連絡し指示を受けて対応するようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員が各部署に設置しており、定期的な防災チェックを行い、定期的な避難訓練も行っている。各災害に対応したマニュアルを作成しています。	災害マニュアルを作成し、各災害時の対応について家族に説明する。救急対応については、法人内の老人保健施設で心肺蘇生の研修を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時はノックをする。本人に声をかけて入室している。日中休息時はドアに休息中の札をかけるなど安心できるケアを行っている。入居者様の声や思いを尊重し支援している。	利用者の尊厳やプライバシー保護については、法人全体での取組みがある。職員は、利用者本位の対応を心掛け、利用者尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態に合わせ選択しやすい言葉掛けを行っている。本人との会話を大切に、今までの習慣が続けられるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の趣味、嗜好、得意な事を把握しその人が行いたい時に行える環境を整えている。本人のペースに合わせ活動と休息のバランスがとれた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の洋服選びは出来るだけ本人が選べるよう声掛けしている。また2か月に1回移動美容室がある。化粧を習慣的に行っていた方に対して行えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は給食サービスを利用しているが、月に数回皆さんと季節に応じた献立を考え、作る日を設けている。片付けも一緒に行っている。外食が出来ないため立派なお弁当を注文する事もしている。	給食サービスを利用しているが、利用者の希望を取り入れた献立をホームで作ることもある。利用者の力量に合わせ、出来ることを職員とともにやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食サービスを利用しており栄養配分が整っている。水分については必要な方は1日の水分量をチェックしている。個々の状態に合わせた食事形態を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年1回の無料歯科検診を行い治療が必要と判断されたら、訪問歯科などの利用をしている。また歯の健康のための助言を頂いている。日々の口腔ケアは見守り、声掛け、介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットを使用している方は必ずフローシートにて排泄状況をチェックしている。排泄パターンを理解しその方に合ったパット等の提供、排泄の案内時間を調べ、検討しトイレでの排泄を目指している。	職員は、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮し、トイレでの排泄を支援している。昼間・夜間を問わず、利用者ごとに適切な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂る、運動をする、排泄を促す食品の提供(ヤクルト、ジョア)を行っている。腹圧をかける運動や腹部マッサージ等も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回は入浴が出来るように勧めている。長湯が好きな方、顔に水がかかると嫌な方など本人が満足出来るようシャンプーハットを使用したり、のぼせないように気を付けながら長く入って頂くなど個々の入浴法を実践している。	ホームで収穫できるゆずを使用したゆず湯やしょうぶ湯を提供することもあり、利用者の楽しみとなっている。利用者の希望に沿った入浴が出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の習慣、年齢などを考慮し休息を促している。室温や体勢などその方に合った環境整備を行い休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は誰でも見れるように保管している。薬の変更時は申し送りノート、カルテにも記載し情報がわかるように努めている。服薬時に再度錠数が確認できるよう薬表が事務所内に掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などでその方の得意な事を知る、普段の生活の中で得意な事を見つけるなどしてその方に合わせた活動を支援する。又プランに挙げて行えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は禁止しているが、自宅での法事、身内の結婚式への参加は接触を控える等の制限の中参加をして頂いた。結婚式は事前の抗原検査を行っている。	コロナ禍の現在、外出は禁止となっている。外出する代わりにホームで出来ることを検討し、花火大会を実施した。写真を撮り、利用者が思い出せるように工夫している。法事や結婚式には感染対策を行ったうえで参加を認めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いとして預かったお金を金庫に保管し、お小遣い帳で出納管理をしている。自己にて管理できる入居者様は自己保管している方もいる。又自販機でジュースを買いたいという方にはお金を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される利用者には通話できるまでを見守り、介助している。家族から職員に電話があった際は入居者様のも代わっている。年賀状や手紙が書けるよう支援している。家族にも返信の依頼をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の好みに合わせた音楽や映像を流している。刺激の少ない色に統一された室内になっており、空調や換気で室温の調整をしています。季節に合わせた飾りを作成し掲示している。季節に合った食べ物を提供している。	食事の際には、癒しの音楽を流して雰囲気作りに心掛けている。行事の写真や皇室の写真、季節に合わせた飾りが掲示され、利用者が落ち着いて過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の隣に和室の居間があり、ふすまで仕切れる為臥床したり、読書やゲームに集中出来る。一人掛けの大きなソファがあり、向きを変えることにより一人の空間を作ることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居後が使っていた家具、衣類を置いたり、家族との写真を飾っている。誕生日などに家族から贈られた物を飾ったり、入居者様の好みを聞いたりして職員が選んだ誕生日プレゼントを施設から贈呈し使用して頂いている。	家具や調度品は持ち込み自由である。比較的スッキリと整理されている居室が多い。家族の写真等が飾られ、穏やかに過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には本人がわかるように写真と名前が書いている。トイレ、浴室の表示が見やすく掲示している。居室内のタンス等には引出し別に内容がわかるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374400253		
法人名	医療法人光慈会		
事業所名	グループホームながしの里		
所在地	愛知県知立市長篠町新田東11-10		
自己評価作成日	令和3年8月26日	評価結果市町村受理日	令和3年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2374400253-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ前は季節の花を見に外出、季節ごとの御家族様参加の行事などイベントを充実していました。現在は外出も行えない状況でどのようなものが出来るかという点で、まずは見に行けないなら作ろうという形で、季節の花等をモチーフにした飾りを作り、手先の運動も出来、季節も感じられる活動をしています。食事は現在外注の物になり皆さんと作るという事は以前よりなくなりましたが、外注にしたことで栄養配分もしっかり管理されたり、季節の料理が食べれるなど良い点もあります。時折お寿司などのお弁当を近くのお店から配達してもらって等食事をより楽しむ活動をしています。大きなイベントはできませんが入居者様とスタッフだけの縮小した形でのイベントを行い、今できる事を日々考え実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に掲示し目に見えるようにし意識づけを行っている。1年の目標設定は理念をベースとした目標を立てている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において外部との交流はできていません。地域の回覧板を頂き、地域の情報を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では書面のみで現状を報告している。地域への活動は現状行えていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での報告のみしか行えていないが事故報告などを開示することで、開けた施設づくりを目指しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での内容は書面で報告し、年に数回ワーキンググループ会議が開催され意見交換を行っています。書類などの手続きで市役所へ行くと交流したり、メールを通して情報交換を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員を毎月開催し不適切ケアへの検討、改善を目指している。玄関は夜間のみ施錠行い、職員手薄の時以外は施錠していません。身体拘束に対しは新人研修等で学ぶ機会がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内出血ノートを設置し職員の気づきや意識の向上を目指しています。運営推進会議でも開示することで意見を頂いている。虐待に関しても新人研修等で学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修にて専門家から学ぶ機会がある。現状必要とする方はいないが、情報、知識として備えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は全ての項目を説明したうえで契約を行っている。改定時は説明文を添えて御家族へ書類を郵送しご理解いただいたうえでサインを頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にてご相談頂いたら対応しています。苦情相談窓口は施設側と市役所などの外部にもあることを契約時に説明している。意見箱の設置をしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにて意見交換の機会を作り、人事考課における面談等で直接話をする機会を設けている。チョコ案制度を設け業務改善を提案できるようになっており、提案された意見は検討し実践している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて等級を設け等級に応じた給料体形が整っている。ヒヤリハット件数、研修参加、チョコ案など取り組みに応じて評価している。昨年は休憩時間がしっかり取れるように業務改善しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍において集まった研修の機会が少ないが、スマートフォンにて動画を見て学べるようになった。研修の際にかかる費用は法人より支給される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの方とはワーキング会議にて交流し、西三河ブロック会議(現在はZOOMにて開催)に参加し情報共有と意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前見学時などで本人様や御家族から情報を得てそれに応じたプランを立案している。生活していくうえで得た情報や気づきはその都度ショートカンファを行い、検討、改善を目指しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の段階、プラン更新の時に御家族様から思いや意見を伺っている。また決まったプランは説明し同意を得ている。特にどのような生活を希望しているかという点を大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に得た情報を踏まえその方に必要な支援を検討し実践している。必要に応じてリハビリやマッサージのサービスを利用している方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	バックグラウンドなど入居に至るまでの生活歴を教えて頂き、それを基に会話や活動を行って頂いている。出来ることを見極め行っていた頂き、必要な所を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍において行事や面会に制限があり、交流が少ない中、病院受診時などのタイミングでご本人様の状態を報告している。電話や手紙での通信支援も行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において外出禁止になっている。友人との手紙でのやりとりを継続されている方がいる。ホームページにてブログを上げるなど、外部の方が施設の写真などを閲覧できるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や行動に気を付けトラブルを未然に防いでいる。職員が間に入り入居者様同士のコミュニケーションが円滑に進むよう心掛けている。関係性を考えた配席も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の施設の方であった時は様子を伺ったりしている。全ての方ではないですが、状況が変わった時やお亡くなりになった等の時はご連絡を下さっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン立案の際は本人にも出来る範囲で思いを聞いている。カルテには本人の言葉を書くようにしており、その中で出た思いを読み取りケアに活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にそれまでの生活歴などの情報をわかる範囲で御家族様に記入して頂いている。別のサービスを利用されていた方は、その施設へ行き情報などを教えて頂き、可能であればそこで本人様と面談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後しばらく「出来ることシート」というものを付けていき、本人の状態を把握に努めている。プラン更新時には個人情報を見直し必要事項は変更している。毎日プランの達成状況を記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様には面会、受診時に御家族様の意向を伺いプランに反映している。意見シートを活用し検討したい内容があればカンファレンスに議題としてあげて検討しプランにも反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテにはプランの達成状況を評価しており、行った内容の中に本人の様子や言葉を記入するようにしている。プランの評価や状態の変化を抽出しプラン変更にも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族と疎遠になっている方が「見守り家族」を利用していたり、ご希望者は「訪問マッサージ、歯科往診」なども利用して頂いている。ご要望に応じた対応を出来る限り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において外出禁止の為機能していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要であれば医者を紹介する事もありますが、かかりつけの医者を変更して頂くことはしていない。必要あれば情報提供書を記入しDrへ伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を共有できるよう「NS連絡ノート」を設置している。ホームの看護師不在時は併設のデイサービスの看護師と連携し処置や受診への助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報をまとめた書類を届けて情報を共有しています。退院に際しては状態を共有し今後の生活について助言を頂き、ホームでの生活が送れるようにしていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ながしのの里の方針を契約時に伝え契約している。グループホームでの生活が困難となってきた場合は御家族へ説明し一緒に今後について考え、状態に合った生活の場を検討し他施設の紹介や支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケガや応急処置は職員が出来る様に処置BOXを設置し分かりやすいようにしている。急変時はNS、管理者が対応し指示を仰ぐ。夜間の急変も管理者へ連絡し指示を受けて対応するようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員が各部署に設置しており、定期的な防災チェックを行い、定期的な避難訓練も行っている。各災害に対応したマニュアルを作成しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時はノックをする。本人に声をかけて入室している。日中休息時はドアに休息中の札をかけるなど安心できるケアを行っている。入居者様の声や思いを尊重し支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態に合わせ選択しやすい言葉掛けを行っている。本人との会話を大切に、今までの習慣が続けられるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の趣味、嗜好、得意な事を把握しその人が行いたい時に行える環境を整えている。本人のペースに合わせ活動と休息のバランスがとれた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の洋服選びは出来るだけ本人が選べるよう声掛けしている。また2か月に1回移動美容室がある。化粧を習慣的に行っていた方に対して行えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は給食サービスを利用しているが、月に数回皆さんと季節に応じた献立を考え、作る日を設けている。片付けも一緒に行っている。外食が出来ないため立派なお弁当を注文する事もしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食サービスを利用しており栄養配分が整っている。水分については必要な方は1日の水分量をチェックしている。個々の状態に合わせた食事形態を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年1回の無料歯科検診を行い治療が必要と判断されたら、訪問歯科などの利用をしている。また歯の健康のための助言を頂いている。日々の口腔ケアは見守り、声掛け、介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットを使用している方は必ずフローシートにて排泄状況をチェックしている。排泄パターンを理解しその方に合ったパット等の提供、排泄の案内時間を調べ、検討しトイレでの排泄を目指している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂る、運動をする、排泄を促す食品の提供(ヤクルト、ジョア)を行っている。腹圧をかける運動や腹部マッサージ等も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回は入浴が出来るように勧めている。長湯が好きな方、顔に水がかかると嫌な方など本人が満足出来るようシャンプーハットを使用したり、のぼせないように気を付けながら長く入浴して頂くなど個々の入浴法を実践している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の習慣、年齢などを考慮し休息を促している。室温や体勢などその方に合った環境整備を行い休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は誰でも見れるように保管している。薬の変更時は申し送りノート、カルテにも記載し情報がわかるように努めている。服薬時に再度錠数が確認できるよう薬表が事務所内に掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などでその方の得意な事を知る、普段の生活の中で得意な事を見つけるなどしてその方に合わせた活動を支援する。又プランに挙げて行えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は禁止しているが、自宅での法事、身内の結婚式への参加は接触を控える等の制限の中参加をして頂いた。結婚式は事前の抗原検査を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いとして預かったお金を金庫に保管し、お小遣い帳で出納管理をしている。自己にて管理できる入居者様は自己保管している方もいる。又自販機でジュースを買いたいという方にはお金を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される利用者には通話できるまでを見守り、介助している。家族から職員に電話があった際は入居者様のも代わっている。年賀状や手紙が書けるよう支援している。家族にも返信の依頼をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の好みに合わせた音楽や映像を流している。刺激の少ない色に統一された室内になっており、空調や換気で室温の調整をしています。季節に合わせた飾りを作成し掲示している。季節に合った食べ物を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の隣に和室の居間があり、ふすまで仕切れる為臥床したり、読書やゲームに集中出来る。一人掛けの大きなソファがあり、向きを変えることにより一人の空間を作ることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居後が使っていた家具、衣類を置いたり、家族との写真を飾っている。誕生日などに家族から贈られた物を飾ったり、入居者様の好みを聞いたりして職員が選んだ誕生日プレゼントを施設から贈呈し使用して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には本人がわかるように写真と名前が書いている。トイレ、浴室の表示が見やすく掲示している。居室内のタンス等には引出し別に内容がわかるようにしている。		